

原子力安全委員会の活動について ～放射線関連～

Radiation Related Activities of the Nuclear Safety Commission

久住 静代

Shizuyo KUSUMI

原子力安全委員会

Nuclear Safety Commission

18世紀の産業革命を契機として世界の人口は急激に増加しはじめ、それまで約6億人であった世界人口は、20世紀の終わりには約60億人に膨れあがりました。この人口の増加に伴うエネルギー需要の拡大は、炭酸ガスの排出を増加し、地球の温暖化をもたらすことになりました。

そして、今や世界は地球温暖化対策としての原子力エネルギーの利用拡大への取組を加速させ、現在、原子炉を運転している国（30か国）の他に、計画・検討中の国が43か国、関心を持っている国が25か国に達しています（IAEA A newsletter of the Division of Nuclear Power Vol. 6, No. 3, September 2009）。

しかし、原子力平和利用の大前提は安全であり、原子力安全は取りも直さず放射線安全です。この様な中で、放射線防護は、原子炉の設計、建設、運転、廃止の各段階、更には原子力防災において、非常に重要な役割を果すこととなります。

放射防護には地道な日々の積み重ねが必要ですが、そのことが原子力の安全確保を確実なものにするのだという自負をもって、一緒に努めて参りませんか。

本講演では、日頃あまりお目に触れることのない原子力安全委員会の、特に、放射線分野に関係した活動を紹介します。

忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

講演の内容：

1. わが国の原子力行政体制と原子力安全委員会について
2. 原子力安全委員会の放射線関連活動
 - 1) 第2期「原子力の重点安全研究計画」の策定
 - 2) 放射線防護の基本的考え方及び、指針における放射線防護にかかる記載についての検討
 - 3) JCO臨界事故10年を迎えて ―原子力安全委員会の取組状況について
 - 4) 国際関係対応